外国出張報告書

平成 26 年 4 月 14 日

1. 出張国名　　ラオス、インドネシア

2. 出 張 月　　平成 26 年 2～3 月

3. 出張目的　　住民による生物多様性評価のための魚類の利用における重要性に関する調査（ラオス）及びｲﾝﾄﾞﾈｼｱの農家経営における在来作物ｻｺﾞﾔｼの利用に関する現地調査：C

4. 成果の概要

〔ラオス〕

水辺域の魚類の利用に関する調査で、これまで明らかになった魚種と採取理由について、農家に確認を行った。魚種については、同種の魚が民族によって異なった現地名で呼ばれていたり、異種の魚が同種と認識されることもあることが分かった。採取理由については、理由の中に同じことを意味する項目が含まれていることが明らかになった。

食事における生物資源の寄与に関する調査に関し、農家経営研究者と打ち合わせをし、対象世帯、調査時期、調査手法、調査項目などを確認した。

〔インドネシア〕

前回出張で選定した農村で、サゴデンプン生産活動に従事する世帯としていない世帯を調査し、農家経営状況を比較したところ、従事する世帯は、家族の平均的な学歴が高卒以下であり、農業や他の農外活動に従事していない世帯が多く、サゴデンプン生産のみに依存している世帯が多いことがわかった。